

スーダングラスの新系統について

中村 博

ウラ作導入にエンバク、イタリアンライグラスを始めとする各種の飼料作物が進んで来た今日では、冬期間の青刈飼料にはさして困らないようになった。むしろ八月一〇月の候の青物をと、の聲が高い。

特に暖地においては夏季乳量の減少と共に牧草類の高温障害が甚だしい。そのためその後の回復には是非新鮮な青草をふんだんに牛に与えたいという、このような声が出ることは今更始まつたわけではない。

ところで、従来は玉蜀黍、青刈大豆を若干見ると夏作の飼料作物栽培は非常に少い、勿論、古来水稻を主体とする農家経営であつたことはいまでもないが、高温に耐え、長期青刈のきく適当な作物が見当たらなかつたことが、さらに大きく原因している。

この期間に利用される飼料作物としては古くからスーダングラスがある。最近ではこれの新系統が出てきた、即ち従来のロゾクと交配して作出されたものがそれである。今まで普及していたコムンスーダンに比べて、葉幅が広く、生育旺盛な晩生種で、ロゾクのタイプに近くなつてゐる。欠点としては再生力がやや弱く、青酸含量が若干多い。品種としては輸入種でスイートスーダン、ティフト、又はカリフォルニアなどがある。わが国でも農業技術研究所で、数年前から育種選抜されてきたものが目下各地の試験場で適応性を検定中である。

又雪印種苗会社からも「雪印改良種」と名づけられて出されている。これは農研の系統と全く。何れにしてもこのように新系統が種々現れたことは楽しいことである。

ではこれらのものが従来のものに比較して、どの程度の生産力を持つかについて、速からずはつきりすると思うが、昨年私のところで行つた試験結果からみれば耐病性、再生力などに欠点のあるものも見られるが総収量においては可成り高い生産性を持つものとうかがわれた。一応の参考までにこの成績の一部を以下概略紹介したい。

スーダングラスの系統比較

試験—その一—

試験の方法

五月二十六日に畦幅二尺、株間約四寸、三列の点播とした。刈取期は次表の通りであつた。

刈取	系統	スイート	雪印改良	カリフ オルニア
一番刈	七月一日	七月一日	八月一日	
二番刈	七月二二日	七月二二日	八月二二日	
三番刈	八月二二日	八月二二日	八月二二日	

備考 a カッコ内は刈取時の総茎数に對する出穂茎の%

二 試験の結果
b 刈取部位は一、二番刈は地上十種、三番刈は地際とした。

第1表 刈取時の草丈、茎数、生草調査について(草丈、茎数及び生草収量)

系統	刈取	草丈	葉幅	五〇	生草収量
刈取	回数	(穂)	(穂)	本数	(担)
スイート	一 番刈	二二五	一	二四四	二九四
	二 番刈	二七五	一	二六六	二八〇
	計	四〇〇	二	五一〇	五七四
雪印改良	一 番刈	二二五	一	二四四	二九四
	二 番刈	二七五	一	二六六	二八〇
	計	四〇〇	二	五一〇	五七四
カリフォルニア	一 番刈	二二五	一	二四四	二九四
	二 番刈	二七五	一	二六六	二八〇
	計	四〇〇	二	五一〇	五七四

備考 草丈は四〇個体、五〇個体間茎数は八カ所の平均値。生草収量は、四区平均である。

三 考 察

農研スーダングラスの系統とみられる雪印改良スーダンが草丈、生草収量において、一、二番刈共に最高を示したことは、スイートスーダンとの間に有意差は認められないまでも高い生産力を持つものとうかがわれる。その長所は一番刈の生育旺盛なこと、特に草丈の伸長においてみられる。又葉幅のかなり広いことも品質の点から注目される。欠点としては二番刈後の生育不良なこと。

スーダングラスの系統比較試験—その二—

試験の方法

六月十三日に畦幅二尺、株間三寸、三列の点播とした。刈取期は次表の通りであつた。

系統	農 研	コムン	スイート
一 番刈	八月二二日	八月二二日	八月二二日
二 番刈	八月二二日	八月二二日	八月二二日
三 番刈	八月二二日	八月二二日	八月二二日

第2表 刈取時の草丈、茎数、生草収量について(草丈、茎数及び生草収量)

系統	刈取	草丈	五〇	生草収量
刈取	回数	(穂)	本数	(担)
農 研	一 番刈	二二五	二四四	二九四
	二 番刈	二七五	二六六	二八〇
	計	四〇〇	五一〇	五七四
コモン	一 番刈	二二五	二四四	二九四
	二 番刈	二七五	二六六	二八〇
	計	四〇〇	五一〇	五七四
スイート	一 番刈	二二五	二四四	二九四
	二 番刈	二七五	二六六	二八〇
	計	四〇〇	五一〇	五七四

備考 草丈は四〇個体、五〇個体間茎数は八カ所の平均値。生草収量は四区の平均値である。

三 考 察

農研及びスイートスーダンはコムンスーダンに比較して晩生であり、スイートは農研よりもなお晩生である。一番刈まで、特にその後半期の生育は農研が旺盛で刈取時においても草丈、収量共に最高であつた。一番刈後の生育は各品種共に不振であつた。中でも農研はだけに、減退の傾向が大きかつた。この試験は非常に遅播きであつたことと、一番刈の時期が高温期であつたことと葉枯病の発生などで、充分な考察を加えることは出来なかつた。今後の試験結果にゆづる。(山口県農業試験場・技官)